

学校教育目標	・自分をつくる【知】【体】 自己をしっかり見つめ、個性ある存在としての自分を確立していく。 ・想いをはぐくむ【徳】 自分だけでなく他者に対する気持ち、接し方、態度などを育てていく。 ・未来へつなげる【公】【開】 他者との関わりや学びあいを通じて、社会の中にある自分を次のステップへ進めていく。			
	創立 52 周年 児童生徒数: 640 人	学校長 濱崎 利司 主な関係校: 篠原小 篠原西小 港北小 城郷小 大豆戸小 菊名小 県立岸根高等学校	副校長 田上 智之	2 学期制 一般学級: 17 個別支援学級: 3

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	篠原中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
・自分づくりに関する力 ・日本や世界の発展に平和的に寄与しようとする心 ・持続可能な社会の創造に貢献しようとする態度	篠原中学校 篠原小学校 篠原西小学校 港北小学校	○自己肯定感をもち、未知のことへ主体的にかかわる子ども ○他者への感謝の気持ちをもち、自らも社会貢献する子ども ・地域からの支援への感謝の気持ちをもてるように、「しのほら学校支援地域本部」を中核に地域と協働的にかかわる。 ・地域交流、国際交流等のボランティア活動等を通して、多面・多角的な視野を育てるとともに、自己肯定感(アイデンティティ)を育てる。

中期 取組 目標	全教職員で安全・安心、活力と魅力のある学校づくりと学校経営安定化を目指し、 ◎グローバル社会で生き抜くために、本物体験を通して多面的な見方、考え方のできる生徒を育てるようにします。 ・互いがかけがえのない存在であることが実感できるように、関わりを大切にしたい集団活動や体験的な活動の充実を図ります。 ◎教師の授業力の向上を図り、学ぶこと、分ることの楽しさを生徒が実感できるようにします。 ・生徒が意欲的に学ぶことのできるように、ICT機器の利活用を図りながら、場、形態、教材の工夫をした授業を実現します。 ・「指導と評価」の一体化を図り、日常的にPDCAを意識し、生徒の資質能力を伸ばす信頼される評価を目指します。 ◎教職員一人ひとりが学校運営に参画し、生徒が安全・安心して心豊かな学校生活が送れるようにします。
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知	①教科での授業研究等を通して、子どもの対話的な活動を取り入れ、主体的に考え表現できる、教材の工夫を行い、授業力向上を図る。②新学習指導要領に基づく評価方法の情報交換や研修を継続し、より効果的な実践を行う。③全学年を通して、朝学習を実践することで、補充的学習の質を高め、基礎学力の向上や学習習慣の定着化を図る。
担当 学習指導部	
徳 豊かな心	①道徳授業の工夫や改善を図り、教育活動を通じて、生徒の人格形成の基盤となる道徳的な心情や意欲、態度、習慣などを醸成と育成を図る。②一人ひとりを大切にしたい人権尊重の精神を身に付けるための取組(国際理解教育とよこはま子ども国際平和プログラム、人権作文、人権学習など)を実践する。
担当 道徳・人権・国際理解係	
体 健やかな体	①規則正しい生活をしようとする態度を養うとともに、昼休みや学年の集会活動など楽しく体を動かす活動を取り入れ、進んで運動しようとする態度を育成する。②生涯にわたる、運動に関わりつづける姿勢を育てる。③運動の楽しさや必要性を感じ、自ら進んで取り組む姿勢を養う。④自己の健康のために、主体的に課題解決できる子どもの育成を目指す。保健体育科を中心とした健康に関する教科等の授業改革を図る。またプロのダンサーを招いて授業を行い、本物に触れることにより、運動への興味を掻き立てるとともに健康に対する意識の向上にもつなげる。⑤手洗いなどの感染症予防習慣を継続し、健康に対する意識を高める。⑥毎月の「食育の時間」を継続し、食を大切にすることを学ぶ。さらに1年生と保護者を対象に横浜Fマリノスの食育教室を行い、中学生期をより健康に成長するための意識を高める。
担当 保健体育科・養護教諭	
公 開 SDGs・国際交流	①持続可能な社会を実現するための目標を認識し、多面・多角的なグローバルな見方や考え方を育成するために、国際理解の実践をしたり、SDGsについて学んだりする。 ②道徳や「国際平和スピーチコンテスト」を通じて、ピースメッセンジャー都市・横浜の生徒である自覚と国際理解・国際貢献の意識を高める。
担当 保健安全指導部・英語科・道徳・人権・国際理解係	
いじめへの対応	①いじめの未然防止:年2回のY-Pアセスメントを行い、子どもの実態把握を行い、あらゆる教育活動を通して、子どもたちの自己有用感を育て、いじめが起きにくい風土づくりを目指す。②いじめの早期発見:定期的にアンケート(記名式含む)、教育相談を行い、教職員の見守り体制、情報共有を強化する。③いじめの早期対応:「いじめ防止基本方針」に基づき、保護者、地域、関係機関との連携を密に、生徒に対する支援、指導の方針を明確に対応する。
担当 学年連絡会・いじめ防止対策委員会	
人材育成・ 組織運営(働き方改革)	①生徒活動を確保しながら、働き方改革と授業時間数確保を踏まえ、学校行事を精選しつつ、先を見通した行事の企画提案を準備し、運営する。 ②多角的に学校運営に参画ができるよう経験年数の少ない教員を管理職をはじめ組織でサポート・育成する。
担当 教務部	
特別支援教育	①特別支援教育委員会の定期開催と必要に応じて小委員会を開催して内容の充実を図り、サポートルーム等での支援を要する生徒への具体的支援を進める。②通級生徒やサポートルームを継続して利用する生徒には年度初めに保護者や本人と面談を行い、「個別的教育支援計画・指導計画」を作成、共有を。③特別支援教育の研修を行い、教職員間で生徒の共通理解を図る。④特別支援教育としての「横浜どこでもスタディ」の活用実現化を図る。
担当 特別支援コーディネーター・特別支援教育委員会	
キャリア教育	①「職業人になる(1年)」、「職場体験(2年)」、「具体的な進路選択(3年)」と、3年間を見通した指導計画のもと、これらを単独の行事とせず、生徒に自分づくりの継続した積み重ねととらえさせる。 ②学校行事や日頃の授業においても、自分づくりと将来に向かっての積み重ねを意識させるための振り返りを実施していく(キャリアパスポートの活用)。
担当 特活指導部	
小中高一貫した教育	①新型コロナ禍から円滑な脱却を図り、生徒と教職員が異校種年齢の児童生徒と関わりをもてる機会を作り、交流の活性化を図る。 ②幼保小中高と異校種間の学校と地域とのつながりを目指し、「すこやかサークル」との連携を図る。
担当 小中連携・すこやかC特別委員会	
地域連携	①新型コロナ禍から教職員の働き方改革などを踏まえた上で、生徒と地域との関わりを活性化できるように、ボランティアの案内をなげかけていくようにする。 ②「しのほら学校支援地域本部」を中核に、より良い学校と地域のつながりを目指す。
担当 地域連携部	